

■今月の特選句

2013年5月号

■ 頬杖に顎の重たき日永かな

菅野あたる

頬につくべき頬杖を顎に流用か。本来は顎につく杖かも。顎と頬はつながっているからまあいいか。「顎杖の疲れ気味なる日永かな」。

■ ふらここを漕げば漕ぐほど右に寄る

工藤泰子

この句はどうでもいいことを真面目に書いて可笑しい。読者は右に寄る原因を詮索してはならぬ。「自転車を漕げば漕ぐほど風光る」。

■ 髪型のどうにも気になる春うらら

小泉花子

「てこずる」というマイナスを、「春うらら」のプラスで打ち消して、「裏切り」の滑稽句にしたね。僕も作ろう。「膝小僧の皮剥けてゐる秋うらら」。

■ 犯人は現場にもどる桜餅

小林英昭

桜餅が一つ消えたことを、「犯人」「現場」を使って、ミステリー仕立てに。もう一つ食いにくると推理。類似句を。「逃亡の意図などあらず桜餅」。

■ ああ言へば斯く言ふ燕返しかな

下嶋四万歩

燕は春の季語。燕返しは季語なんですか？ だけど存在感があるのは、「かな」で切ったからですね。即答型反論。「そり返る寒月の忍び返し哉」。

■ 就活に成功卒業に失敗

高橋きのこ

南海放送で活躍中の松岡宏忠アナは、かつてNHKに合格したが卒業出来ず断念…というご経歴。「就職に失敗卒業に成功」では可笑しくないね。

■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

- 返礼をしたがマスクの人は誰
・・・こちらもマスクお互い様よ
高橋素子
- 入学児ぐづる間もなく誘はれて
・・・上級生に拉致され登校
田所國威
- 法華経となく鷲の無信心
・・・数えなくてもナンマイダなど
上山美穂
- 春泥の子の抜き足の滞る
・・・スローモーションめきたる画像
加藤 賢
- 美しき誤解のままに卒業す
・・・そして誤解のままに結婚
金澤 健
- 此処とここ力を抜けば枝垂桜
・・・初手から力入れない柳
久我正明
- 春眠のついでにあの世垣間見る
・・・臨死体験よりの生還
白井道義
- 八重霞彼の世この世は紙一重
・・・昼寝覚にも似た心地だね
宮森 輝
- すでに目がもの言つてゐる四月馬鹿
・・・正直者にや嘘はつけない
今城夏枝
- 風といふ骨を抜かれし鯉のぼり
・・・吹いていたのは骨だったのか
永島董玉

隙あらば逃げ出す素振りゴム風船

原田 曄

・・・逃げおせたとて空に弾ける

ゆるいのが流行る日本水温む

日根野聖子

・・・先端行くは腰バンドとも

吾輩は名のある子猫たまである

藤森荘吉

・・・名のあればこそあらタマる哉

■今月の滑稽句

- | | | |
|------|---|-------------------------|
| | 四月馬鹿この世にありし地獄かな
ストレスに衝動買いの四月馬鹿 | 青木輝子
青木輝子
青木輝子 |
| 【佳作】 | 左遷にも花束ありし四月馬鹿 | |
| | 花の風笑顔のみなる会話かな
夢に出る知らない町の花だより | 秋月裕子
秋月裕子
秋月裕子 |
| 【佳作】 | 春昼の太陽発電日和とも | |
| 【佳作】 | 三寒に出合ひ四温にもう振られ
おしゃべりの雀黙らせ初音かな
地球儀の地軸の傾ぎ春遅々と | 麻生やよひ
麻生やよひ
麻生やよひ |
| 【佳作】 | 夜桜に包まれ訳有りの二人
がまがえる放浪の性親ゆずり
宇宙人が追いかけている羽抜鳥 | 足立淑子
足立淑子
足立淑子 |
| 【佳作】 | 山藤の幸せさうにからみつき
葉っぱまで食べるか止すか桜餅
呑み助のおづおづつまむ雛あられ | 有吉堅二
有吉堅二
有吉堅二 |
| 【佳作】 | 鯉のぼりガバと口開け空気読み
また転ぶ二度目の節句の膝の傷
自販機にもう夏だよと教えられ | 栗倉健二
栗倉健二
栗倉健二 |
| 【佳作】 | ふぐりにて溢れる湯殿春の夜
碧い眼の嫁が後継ぎ田を起す
歩き出す人体模型春の昼 | 飯塚ひろし
飯塚ひろし
飯塚ひろし |
| 【佳作】 | 笑ひつつ泣きつつ散った桜かな
ペンペンの友達いっぱい鈴ふれり
刈る程の土筆あるよと秘密めく | 井口夏子
井口夏子
井口夏子 |
| 【佳作】 | 花粉舞い黄砂も飛べど花見頃
雛祭もしやそなたも女の子 | 池田亮二
池田亮二 |
| 【佳作】 | おばちゃんも心は乙女聖母月
小満や別腹分も身になりて | 石川節子
石川節子 |
| | かあちゃんに移る涙や卒業歌 | 板倉肱泉 |

- | | | |
|------|--|-------------------------|
| 【佳作】 | なかなかしぶとき母や春の風邪
それぞれのベンチに二人夕桜 | 板倉肱泉
板倉肱泉 |
| 【佳作】 | 竹槍で守りし頃の武具飾る
徘徊も散策のうち春の宵
少年の日の進駐軍と四月馬鹿 | 伊地知寛
伊地知寛
伊地知寛 |
| 【佳作】 | 進歩なきシンポジウムや春の雪
蛤や嘘を固めて河口堰
忠魂碑梅よ増やせよなる時代 | 伊藤浩睦
伊藤浩睦
伊藤浩睦 |
| 【佳作】 | 描きたるどれも単色チューリップ
来客や残されみしか桜餅
考へる時の腕組みあたたかし | 稲沢進一
稲沢進一
稲沢進一 |
| 【佳作】 | 卒業や袴にスマホ今の人
有給に父危篤とす万愚節
春愁や花粉如きに抗えず | 井野ひろみ
井野ひろみ
井野ひろみ |
| 【佳作】 | はなずはう米粒ほどを愁ひたる
金鳳華の花の輝き摘みとりぬ | 今城夏枝
今城夏枝 |
| 【佳作】 | 焼餅を焼いて嫉妬の腹ふくれ
砂ぼこり目鼻もアカン春嵐
八つ時のくしゃみ隣も生きている | 入江澄泉
入江澄泉
入江澄泉 |
| 【佳作】 | 菜の花の人生に似るほろ苦し
ここからは一人でやれるね入園式 | 上山美穂
上山美穂 |
| 【佳作】 | 明易やなんぢやもんぢやの花咲けり
吊鐘に音のこもらぬ姫女苑
忘れ潮蛸の昼寝を残しけり | 氏家頼一
氏家頼一
氏家頼一 |
| 【佳作】 | 鰻重は年に一度と決めてをり
色欲のある友羨し四月馬鹿
万愚節最晩年の土俵際 | 越前春生
越前春生
越前春生 |
| 【佳作】 | 春の夢出ずる人皆若々し
吉凶の気になる夢や辛夷咲く
諾いは明日も続く四月馬鹿 | 大関のどか
大関のどか
大関のどか |
| | 花冷えや膝つ小僧がすすり泣く | 奥脇弘久 |

- 【佳作】 咲き急ぐ花に嵐の咎のごと
花まつり爺は袴孫は稚児
奥脇弘久
奥脇弘久
- 【佳作】 風情などかなぐり捨てし黄沙かな
春愁の思案に倦みしふて寝かな
無視されし嘘に済まぬと四月馬鹿
笠 政人
笠 政人
笠 政人
- 【佳作】 梅桜さてどの枝で鳴こうかな
七輪の煙に燻されぬる桜
著莪忌とせむ母の逝く日に咲くからに
加藤澄子
加藤澄子
加藤澄子
- 花見酒妻より先に召されたく
【佳作】 はびこれば無論耆りぬ春の草
加藤 賢
加藤 賢
- 静かなる池の水面に風光る
【佳作】 看護師のあや取りの手に風ひかる
一雨に花の開花を急きたてる
門屋 定
門屋 定
門屋 定
- 落椿人の居ぬ間を謀りけり
【佳作】 手に負へる範囲で野焼き消防団
金澤 健
金澤 健
- 天空に羨ましきや鳶の恋
寝坊して鳥と山に笑はるる
【佳作】 啓蟄や虫にも暦ある如し
川島智子
川島智子
川島智子
- 【佳作】 春愁の疲れを残し治療果つ
宰相の愛づる桜も散るさくら
菅野あたる
菅野あたる
- 【佳作】 初キスの鼻水の味花粉症
潤川の積み残されし花筏
久我正明
久我正明
- 初蝶は畑のりボン楽しさう
【佳作】 群生の土筆を囲むフェンスかな
工藤泰子
工藤泰子
- 【佳作】 俎板に真砂女の香り初鯉
目を擦り鼻水流し蓬摘む
黒田忠一
黒田忠一
- 場所取りの背に降りしきる桜花
【佳作】 馬と鹿したがえ四月の桃太郎
小泉花子
小泉花子
- 【佳作】 なんでまた当家ばかりにある残花
春の蚊の一矢報ゆる外厠
小林英昭
小林英昭

- | | | |
|------|--|-------------------------|
| | 孫娘風を吹かせてサクラサク
サクラサクうれしいメール春一番 | 齋藤八兵衛
齋藤八兵衛
齋藤八兵衛 |
| 【佳作】 | 春風がネクタイの色引きたてる | |
| | 第三次世界大戦四月馬鹿 | 酒井鹿洋 |
| 【佳作】 | 大いなるヒップ並ぶや汐干狩
人間の争い絶えず春愁ふ | 酒井鹿洋
酒井鹿洋
酒井鹿洋 |
| | 校門の老桜見殺し去る学生
嘘でなし琴弾くといふ鸞の鳥
春愁や窓際議長元社員 | 柴田止揚
柴田止揚
柴田止揚 |
| 【佳作】 | 世に遅れ人にも遅れ青き踏む
食べてみせ味見させては目刺売る
挽ぐことは孫に託して柿を接ぐ | 清水吞舟
清水吞舟
清水吞舟 |
| | マネキンの脚も眩しき聖五月
自惚れに甘茶をかけてしまひけり | 下嶋四万歩
下嶋四万歩 |
| | 土筆の娘摘み残されてふくれ面 | 壽命秀次 |
| 【佳作】 | 覗きつつ実況放送揚雲雀
五線譜を飛び出す声や卒業歌 | 壽命秀次
壽命秀次
壽命秀次 |
| 【佳作】 | 高軒搔いて場所取り花の下
これといふ妙薬も無し春の風邪 | 白井道義
白井道義 |
| | れんこんの穴と糸平成に馴染んでいる | 鈴木和枝 |
| 【佳作】 | 緑が加わって我が家の鍋になる
どの雲に頼もうかラブレター | 鈴木和枝
鈴木和枝
鈴木和枝 |
| 【佳作】 | 春風や電話で話す主催者と
本屋さん検定受験拾ひます
春笑い郵便出しに五時まで | 鈴木哲也
鈴木哲也
鈴木哲也 |
| | 抑止力みんなが持てば恐くない
率先し所有する国待ったかけ | 泰田成人
泰田成人 |
| 【佳作】 | 濡れ衣で殺されないぞ核装備 | 泰田成人 |
| 【佳作】 | ほら吹きが真面（まとも）に見えて万愚節
茶摘女は今日も元気よ米寿なり
目借時優先席の空寝かな | 高田敏男
高田敏男
高田敏男 |

- 恋猫と言われたこともあったニャー
地産地消我家は薺畑なり
高橋きのこ
高橋きのこ
- 【佳作】 花筏壊し爆弾低気圧
食べるのに雀は夢中花見かな
夜桜や誰に見られることもなし
高橋マキコ
高橋マキコ
高橋マキコ
- 【佳作】 洗濯物の踊れば風の光るなり
いそいそと嫁菜を摘むや老ひの春
高橋素子
高橋素子
- チューリップ九列十列昼の月
三足せば九十三なり昼の月
【佳作】 苺ジャム造る手のひら大男
武智かずを
武智かずを
武智かずを
- 新人の決意表明万愚節
【佳作】 若者も草も芳し青臭し
田所國威
田所國威
- 先生もブランコに乗る昼さがり
【佳作】 春の蚊のそのままちりになりにけり
くもり空さくら花びらぬすみゆき
田中章子
田中章子
田中章子
- 【佳作】 一日に百句詠みたし春の月
知られざる記憶術師をるやうらら
春暁や山頭火の句をつぶやく
田中 勇
田中 勇
田中 勇
- 【佳作】 顔洗ひいざ出陣と恋の猫
飛行機雲春の夕暮真つ二つ
雪解風トタン打ちをり「ポオ」を読む
田中早苗
田中早苗
田中早苗
- 【佳作】 いぢめずにいぢめられずに卒業す
遠足バス着けばトイレへ皆ダッシュ
眉に唾つけて出勤四月馬鹿
田村米生
田村米生
田村米生
- 【佳作】 花冷えに宴ことさら盛り上げる
飼い犬も仲間に入れて野に遊ぶ
売り家の庭の桜は盛りなり
津田このみ
津田このみ
津田このみ
- 【佳作】 雑居房めく喫煙室亀鳴けり
濃紺の借着のような新社員
山笑う両性具有の老夫婦
都吐夢
都吐夢
都吐夢

- | | | |
|------|-------------------|-------|
| | 花疲れ昼を引き摺る酒の夜 | 飛田正勝 |
| | 壺焼の大より中をひねり出し | 飛田正勝 |
| 【佳作】 | 正解はひとつではなし四月馬鹿 | 飛田正勝 |
| | 人を待つ人の差しある黒日傘 | 永島董玉 |
| 【佳作】 | 竹の子と最早呼べなき背丈にて | 永島董玉 |
| 【佳作】 | ランドセルの羽交締めする一年生 | 西をさむ |
| | 飲み疲れ話疲れて花疲れ | 西をさむ |
| | 菜の花や息は南に屁は北に | 西をさむ |
| 【佳作】 | アマゾンより馬穴の届く万愚節 | 原田 曄 |
| | 死んだかと揺り起こさるる朝寝かな | 原田 曄 |
| | 神殿に誰も詣でず桜狩 | ひがし愛 |
| | 銀行も駅もマスクの人ばかり | ひがし愛 |
| 【佳作】 | 見渡せば女子のをらぬ花菂 | ひがし愛 |
| | 一年の計は今ぞ筍売り | 久松久子 |
| 【佳作】 | 水馬のコンチネンタルタンゴかな | 久松久子 |
| | 雀の子三十六計弁へて | 久松久子 |
| 【佳作】 | 返信の未だ届かぬ春愁 | 日根野聖子 |
| | 眠たげにチャイム鳴るなり新学期 | 日根野聖子 |
| | 小綬鶏の性懲りもなき誘ひかな | 広瀬雅幸 |
| | 幼児語が得意なやうな黄水仙 | 広瀬雅幸 |
| 【佳作】 | 頑にシートは青く花の冷え | 広瀬雅幸 |
| | 洗面器朝寝す面皷浸しけり | 藤岡蒼樹 |
| | 尊徳像髻にべっとり燕糞 | 藤岡蒼樹 |
| 【佳作】 | グーパーのコミュニケーション一年生 | 藤岡蒼樹 |
| 【佳作】 | 春眠や話に上手下手のあり | 藤森荘吉 |
| | 卒業す巷の風に吹かれゆく | 藤森荘吉 |
| | 紙飛行機ひとり飛び行く春うらら | 藤原セツ子 |
| | 空の色吸ひ込み青し犬ふぐり | 藤原セツ子 |
| 【佳作】 | 花びらのひらひら浮かべ露天風呂 | 藤原セツ子 |
| | 菖蒲の芽早くも鋭く顔を出し | 松井寿子 |
| 【佳作】 | 阿弥陀仏の膝に触れたしご開帳 | 松井寿子 |

	晴れた日の花人となりさまよえる	松井寿子
	一七で春の苦吟の季語切字	松尾軍治
【佳作】	おじさんのくくだ愚痴る彼岸かな 出来た句に名句と思ふ春夜かな	松尾軍治 松尾軍治
	ヤンママの競艶となる卒園日 サムライら春愁深く凱旋す	丸山絃一 丸山絃一
【佳作】	卒業日娘（こ）も神妙の朝餉かな	丸山絃一
	数値のみこだわる医者や四月馬鹿 花吹雪浴びておぼこのようになり	三塚不二 三塚不二
【佳作】	蜂の子と聞いて呑み込む信濃宿	三塚不二
	線香もつ手が火事だよ春疾風	三橋百笑
【佳作】	喋るのとくしゃみ半はん花粉症 花がら摘みいつか我も摘まれる身	三橋百笑 三橋百笑
【佳作】	花ぐもり駱駝ねむげの咀嚼音 花に鳥女ばかりの噂酒	宮森 輝 宮森 輝
【佳作】	桜烏賊覚めても消えぬ明けの夢 春光や街探検の兄弟 嫁菜飯あなどり難き母の耳	百千草 百千草 百千草
【佳作】	白蝶一筆書きの影遊び 春嵐いつも飛び出す古看板 普通の子希少価値の雀の子	森岡香代子 森岡香代子 森岡香代子
	老輩は虎造大鵬卵とじ	森 要
【佳作】	騙されたふりして騙す馬鹿同志 桜咲く酒と肴を更に皿	森 要 森 要
	囀りと呼ばれ騒音褒めらるる 猫の子に人を威嚇のDNA	八木 健 八木 健
【佳作】	目を貸した覚えなけれど春眠し	八木 健
【佳作】	これがまあ春の塵かや万丈の 満開に花見弁当大わらは 朧夜の男女の影や格子窓	八洲忙閑 八洲忙閑 八洲忙閑
	受験終ゆ日輪を呑む大あくび	柳 紅生

- | | | |
|------|-------------------|-------|
| | 蝌蚪の国潰してビルの谷間なる | 柳 紅生 |
| 【佳作】 | かじられし脛の血を吸ふ春蚊かな | 柳 紅生 |
| | 認痴でも漢字の先生「ネギ」は神官 | 柳澤京子 |
| 【佳作】 | ラバシャツ通し失禁ホーホケキョ | 柳澤京子 |
| | 震災切手眺めて過ごすさんいちいち | 山下正純 |
| 【佳作】 | 早出して一人花見のプチセレブ | 山下正純 |
| | 紅白に雫湛ふる枝垂れ梅 | 山下正純 |
| | 双子ちゃん同時に授乳弥生かな | 山本けい子 |
| | その枝の頑固を極め木瓜の花 | 山本けい子 |
| 【佳作】 | 鯛の眼を真っ先に食べさくら咲く | 山本けい子 |
| | 坂の町桜が咲いて花の町 | 山本 賜 |
| | 耳に新しい日銀の桜かな | 山本 賜 |
| 【佳作】 | 生きてきた方が長いと蕎麦を煮る | 山本 賜 |
| 【佳作】 | 国会の界限いつも万愚節 | 横山喜三郎 |
| | 焼鳥屋今日は素通りバードデー | 横山喜三郎 |
| | さまざまな事を失念桜散る | 横山喜三郎 |
| | 四月馬鹿老いては妻に逆へず | 渡辺さだを |
| 【佳作】 | 黄沙来て珈琲の泡濃かりけり | 渡辺さだを |
| | 食堂（じきどう）の中覗きみて桜咲く | 渡辺さだを |